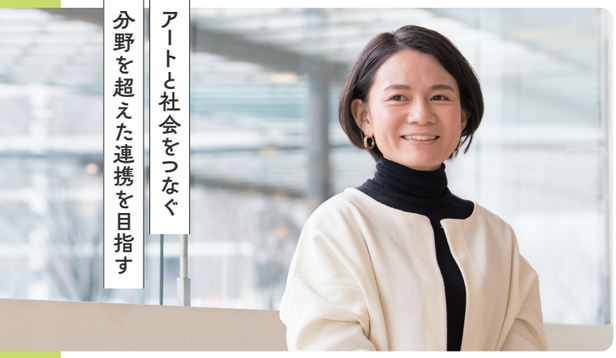
卒業生の声



アートと社会をつなぐ分野を超えた連携を目指す

立石 沙織 さん

文化政策学部芸術文化学科　2007年度卒業
公益財団法人静岡県文化財団 アーツカウンシル課
（アーツカウンシルしずおか プログラム・コーディネーター）

大学卒業後、横浜市にあるアートNPOの職員として、アートによるまちづくりに7年ほど携わり、“アートが地域にできることは何か” を問い続けてきました。少し立場を変えて、制度を考えたり、支援する側で挑戦したいと思うようになり、地元静岡へ。今はアーツカウンシルしずおかでプログラム・コーディネーターとして働いています。役割は多岐にわたりますが、アートを活かした様々な活動を支援し、地域を元気にするのが私たちの仕事。例えば、限界集落にアーティストが関わることで、社会的な課題解決のきっかけを生むように、アートを専門的な分野から広げて、社会の他の分野と結びつけることで、誰もが身近にアートを感じられる機会をつくっていきたいと思います。

学生時代にSUAC展に参画した経験は、学生の横のつながり、先生や社会との縦や斜めのつながりを感じる機会となり、その後の私の軸となりました。これから先、日本各地で創造的な活動を支えるマネジメント人材が求められる時代になるはずです。SUACで学び、地域社会で活躍できる人になってください。

加賀 茅捺 さん

文化政策学部芸術文化学科　2018年度卒業
公益財団法人豊橋文化振興財団
穂の国とよはし芸術劇場　事業制作部

故郷の青森県八戸市は文化によるまちづくりが盛んで、高校時代から地方都市における文化芸術の振興に関心を持ち、文化政策やアートマネジメントが学べるSUACへ。大学1年の頃から現在の職場、穂の国とよはし芸術劇場に通い、様々な事業に参加する中で、文化芸術の持つ力を地域や社会へどう活かすかを考え実行する劇場の方針に惹かれ、就職を決めました。

現在は劇場の企画制作スタッフとして、事業の企画・運営やチケットの販売、広報などを行っています。在学中、演劇ワークショップに興味があると先生に伝えたのがきっかけで、自分が提案した企画を授業で実現させることに。参加した友人からフィードバックも得られ、企画の意義について深く考える機会にもなり、現在の仕事でもこの経験が活きています。

豊橋に移り住んで4年目、まだ出会ったことのない人たちへ文化芸術の持つ力をどう届けるかを考え、地域課題解決のために事業を実施することが目標です。将来は地元に帰り、文化芸術で人々が繋がりあえるよう力を注ぎたいです。

いつか故郷の街や人々を文化芸術で元気にしたい学びとともに、育んだ夢

取得資格	図書館司書／博物館学芸員／日本語教員養成課程／社会調査士
就職先	（独）日本芸術文化振興会、（公財）静岡県文化財団、（公財）静岡市文化振興財団、（公財）しまね文化振興財団、（公財）豊橋文化振興財団、（公財）名古屋市文化振興事業団、（公財）浜松市文化振興財団、（公財）平野美術館、（公財）富士市文化振興財団、（公財）三重県文化振興事業団、（公財）横浜市芸術文化振興財団、人形劇団かかし座、（有）劇団むすび座、（株）エスピーエスたくみ、（株）キョードー東京、（株）共立ファシリティ・マネージメント、（株）ケイミックスパブリックビジネス、サントリーパブリシティサービス（株）、（株）シアターワークショップ、（株）シグマコミュニケーションズ、（株）静岡新聞社、静岡放送（株）、（株）宝塚舞台、（株）テレビ山梨、（株）博多座、浜松ケーブルテレビ（株）、（株）ピーエーシー、（株）若尾綜合舞台、（株）SBSプロモーション、（株）SBSメディアビジョン、磐田市香りの博物館、焼津小泉八雲記念館、静岡県庁、伊東市役所、磐田市役所、掛川市役所、岐阜市役所、江南市役所、静岡市役所、島田市役所、豊橋市役所、浜松市役所、福知山市役所、松本市役所、三島市役所、盛岡市役所、（株）静岡銀行、（株）清水銀行
大学院進学	静岡大学、静岡文化芸術大学、成城大学、立命館大学

公立大学法人
静岡文化芸術大学
SUAC

〒430-8533静岡県浜松市中区中央2-1-1
Tel. 053-457-6111　Fax. 053-457-6123
https://www.suac.ac.jp/

HP　Twitter

発行：2023年7月

Shizuoka University of Art and Culture　Faculty of Cultural Policy and Management

芸術

Department of Art Management 2023

静岡文化芸術大学 文化政策学部
芸術文化学科

授業紹介

好きを超えてアートに関わり、支え、伝える人になる

カリキュラムの特徴 ►

専門科目 現代社会と芸術文化

3年

酒巻 鼓さん
脇町高等学校
（徳島県阿波市出身）

この科目では様々な問題を抱く現代社会において、芸術文化活動はいったい何ができるのかを考えることができます。文献を読んでレポートを書いたり、議論の場が設けられていたりするため、講義で吸収した知識をしっかりアウトプットできることもこの科目の魅力です。受講を通して、自分がいかに現代社会や芸術文化について分かった気でいたのかに気づかされました。

学芸員課程 博物館実習

4年

甲斐 千尋さん
熊本マリスト学園高等学校
（熊本県甲佐町出身）

「博物館実習」では、学内外での実践を通して学芸員に必要な知識や技術を学びます。夏休みには履修者各自で美術館・博物館に赴き、独自の実習プログラムに参加します。私も熊本市現代美術館にて、他大学の学芸員養成課程履修者と様々な議論を交わしました。職員の生の声が聞けたり、バックヤードに足を踏み入れたりなど、思い出の美術館の隠された一面を知ることが出来るのも、博物館実習ならではの特権と言えるでしょう。

※写真は左・右ともに上原美術館での実習風景

地域連携演習 鴨江アートセンター

2年

福本 裕晃さん
川越高等学校
（三重県・四日市市出身）

本学が掲げる【知と実践】を詰め込んだ科目です。地域課題に挑戦する多様なプログラムがあり、現在私は鴨江アートセンターの企画事業に関わっています。文化的コモンズの開拓地とも呼べる場所でアートの機能性を模索中です。現場あっての学問であると実感し、モチベーションが高まります。

覗いてみよう 1年生の1週間

阿部 壮太郎さん
桐蔭高等学校（和歌山県和歌山市出身）

月
1限 ► 美術史（日本・東洋）I
3限 ► 多文化共生論
4限 ► 芸術活動A（写真）

火
2限 ► 英語コミュニケーションIA
3限 ► 芸術文化入門
4限 ► 学芸の基礎
5限 ► 文化芸術体験演習

一日、同じ学科の人たちと一緒なので楽しいです

水
2限 ► 情報リテラシー基礎

午後はよく図書館に行ってます

木
1限 ► スポーツ活動A
2限 ► 生涯学習と文化
3、4限の時間に茶道部（サークル）
5限 ► エコロジカルデザイン

校舎内の和室で活動しています

金
2限 ► 英語コミュニケーションIB
4限 ► 非営利セクターの経営

週末
スポーツ活動で知り合った友達と卓球サークルを作り、午前中に体育館で活動しています。

オススメ授業

文化と芸術 美術史（日本・東洋）I

日本の美術作品の移り変わりを、東洋美術のトレンドに結び付けながら学びます。前期と後期に分かれ、I（前期）では飛鳥時代から室町時代前期の絵画を扱います。時代や描く対象ごとに、様々な特徴を持った作品を比較することで、日本の美的感覚がどのように変化してきたかを見ることができます。学芸員資格取得にも欠かせない科目です。

教員紹介

美意識を視野に入れた企業人や公務員、そしてビジネス感覚をそなえた文化・芸術関係の人材を育てます。

稲山 玲 講師 | 日本演劇史

演劇はコトバ、身体、美術、音楽…と多様な要素から成り立つ芸術です。自分なりの角度から演劇について考えてみましょう。

戦後日本の劇作家たちが生み出した作品を研究。テキスト、演出、社会背景、制作環境等を調査し、総合的に作品を考察する。

片山 泰輔 教授 | 芸術支援／財政／公共経済

芸術活動を支える仕組みや、市民が芸術と出会う場の創出方法を一緒に考えましょう。

経済学的視点から芸術支援のあり方を研究し、国や多数の地方自治体の文化政策立案に関与。

田中 裕二 准教授 | 博物館学／日本近代史

博物館や美術館には学芸員だけではなく、多彩なプロフェッショナル人材が必要です。

博物館運営や企業の芸術支援について研究。本学赴任前は公立博物館に20年勤務。

梅田 英春 教授 | 民族音楽学

「世界音楽」は、現代の多様化する文化や社会の中から「音楽」を見つめるキーワードです。

バリ島の音楽や芸能について研究。ガムラン音楽の演奏者としても国内外で活動を行う。

上山 典子 教授 | 西洋音楽史

私たちの日常には音楽があふれています。そんな社会と音楽の関係について考えてみませんか。

クラシック音楽を通して西洋の音楽文化を探求中。

谷川 眞美 教授 | 現代美術論／美学

現代美術は今を生きる私たちの美術。社会の動きと密接にかかわっています。

現代美術に関する評論や展覧会評を手がけるほか、展覧会企画にも携わる。

奥中 康人 教授 | 音楽学

たくさん本を読み、いろいろな音楽を聴くことは、未来の自分への投資と考えるとよいでしょうね。

唱歌、ラッパ、鼓笛隊、タカラヅカなどの研究を通して、日本の歴史や現代社会について再考。

佐藤 良子 准教授 | 舞台芸術政策論／地域文化振興論

文化芸術に関わる法・制度を知り、現場を担う方々の想いに触れて、音楽や舞台芸術が息づく地域の未来を構想しましょう。

音楽や舞台芸術などの活動を持続可能なものとするための政策や地域社会との関わり、その担い手等について研究。

永井 聡子 教授 | 劇場史／演劇・劇場プロデュース

「芸術作品」をリードする劇場運営
舞台芸術の世界を研究していきます。

演劇史や公演、劇場プロデュースの分野を研究。劇場のプロデューサーとして勤務後、本学に着任。本学創立10周年記念公演ミュージカル「いとしのクレメンタイン」を企画。

片桐 弥生 教授 | 日本美術史

美術作品が制作された当時、いかに鑑賞されていたのかを考えることも大切です。

源氏物語や和歌などの文学と絵画の関係を中心に研究。

高島 知佐子 教授 | 芸術団体の経営／アートマネジメント

芸術文化団体の長期的・創造的な活動には、「経営」のあり方を考えることも大切です。

長期的存続をテーマに日本の伝統文化を担う組織等を研究。

南田 明美 講師 | 共生社会とアート

どのように私たちは「声なき声」に寄り添うことができるのだろうか。「芸術の力とは何か」について一緒に考えてみませんか。

当事者性を大切にしながら、芸術文化活動を通して「皆が憩える場」「居場所」「心の安全地帯」を創造していくことについて、国内外でアクションリサーチや参与観察を通して考察中。